大分合同新聞
ワークシート

県人口はどうなる？

年　　組　　名前

大分県人口ビジョンのたたき台として、２０６０年の県内人口を96万１千人とする案が示されました。

「人口ビジョン」のたたき台 60年に県内96万人

県推計

実現へハードル高く

地方創生の取り組みを全県的に進める「県まち・ひと・しごと創生本部」（本部長・広瀬勝貞知事）は１日、知事と18市町村長が集まる第３回本部会議を大分市内で開いた。将来人口の目標を盛り込む「県人口ビジョン」のたたき台として、人口減少の幅を抑えて２０６０年の県内人口を96万１千人とする案を示した。

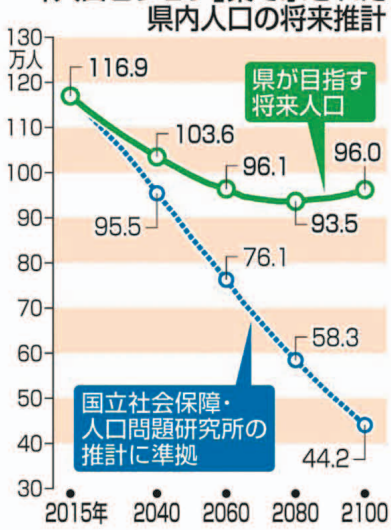
現在の県内人口は約１１６万９千人。県ビジョン案は「当面、人口減少が続くことは避けられない」とした上で、女性が生涯に産む子どもの平均数に当たる合計特殊出生率の向上や、県外からの転入が転出を上回る「社会増」の実現により、減少カーブは緩やかになると推計した。

60年時点の人口は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が示している76万１千人を20万人上回ると試算。その後、80年の93万５千人を底に人口増に転じるとした。

出生率や社会増の数値は、国の地方創生の総合戦略や長期ビジョンを参考に設定した。ただ、合計特殊出生率は現在（13年）の１・56から30年には２・０程度に、40年には２・３程度まで上昇。社会増は25年以降、社人研の推計から毎年千人程度上乗せして算出するなど、実現に向けたハードルは高そうだ。

会議では広瀬知事が「国の見通しを前提にしたところがある。なかなか大変な努力をしていかなければならない」と説明。参加した市長から「非常に積極的な設定だが、子育て支援などいろんな施策が必要」との声も上がった。

人口ビジョンの策定は、各自治体が地方創生の地方版総合戦略をつくる前提になる。政府は全国の自治体に対し、本年度末までに総合戦略をつくるよう求めている。広瀬知事は県の戦略を「10月くらいにはスタートしたい」と述べ、各市町村とも歩調を合わせたいとした。会議では臼杵市が策定した人口ビジョンも紹介した。



（2015年６月２日朝刊５面）

①県の推計では人口が最も減るのは何年で何人でしょう。国立研究所の推計より何人多いでしょう。

②県の推計のように進むには、二つのことが必要と書かれています。何と何でしょう。

③県の人口を増やす（減る数を抑える）にはどうすればいいか。アイデアを出してみよう。